令和５年度　地域医療構想における具体的対応方針

１．基本情報

病院名：医療法人和幸会　阪奈中央病院

医療圏：西和

２．地域医療構想の達成に向けた将来の方向性について

（１）地域医療構想を踏まえ、自院が今後地域において担う役割、機能について

医療法人和幸会グループには、精神科および医療療養型の機能を有する阪奈サナトリウム（四條畷市）、介護老人保健施設パークヒルズ田原苑（四條畷市）、運動療法施設MediTAS ZeloFit（病院併設）、サービス付き高齢者向け住宅さくら苑等があり、多彩な医療・福祉サービスを地域住民に提供できる体制が整っております。
また、付属施設として在宅事業部（訪問看護、訪問リハビリ、訪問介護、居宅介護支援、地域包括支援センター）を充実させることにより、地域の医療機関及び福祉施設との連携を密にし、地域に密着した患者さまのニーズに合わせた医療・福祉サービスの提供を目指しております。
関連法人として、看護学校2校・リハビリテーション学校2校の他に幼稚園・保育所を運営する学校法人栗岡学園があります。当院では、将来の医療人育成のため、実習生受入等のサポート体制を充実させ、人材の育成・確保にも努めております。
そして、当院隣接の上記保育所では、お子様がいても安心して学業・仕事に励むことができる環境を整えております。
当院の院内には、奈良県立医科大学スポーツ医学研究センターが設置され、大学との連携の充実、当院と関連学校へのロボティックスの導入など、最新の医療知識と技術を積極的に導入しています。
これからも、医療機関と教育機関を有する強みを活かし、医療・福祉・教育の各施設が一体となり地域医療の充実に引き続き貢献していく予定です。
地域連携の強化・人材の育成・診療機能の強化など、地域のニーズに応えられるよう、救急応需率の向上や脳卒中診療を充実させ、重症急性期から回復期、在宅医療に至るまで、「面倒見のいい病院」と「断らない病院」としての機能を併せ持ちながら、地域の関係機関との連携を重視し、地域での役割を果たしていきたいと考えております。

（２）自院が希望する、地域の病院間での役割分担について

※地域において貴院が担わない又は縮小する役割・機能ができるかぎり明らかになるようご説明ください。

重症急性期から軽症急性期の受け入れも可能であり、さらに回復期機能として回復期リハビリテーション病棟および地域包括ケア病棟を有しています。
高度急性期機能を持つ近畿大学奈良病院や奈良県総合医療センター等との連携を緊密にし、サブアキュート、ポストアキュートの患者様も積極的に受け入れしていきます。

（３）（２）を進めるための、地域における連携推進などの取り組み方針について

※複数病院間の連携協定など具体的な取組（予定も含む）があれば、相手方の病院名やその取組の内容をできるかぎり明らかになるようにご説明ください。

地域の医療、福祉、介護関係者と地域医療の充実を図るため、下記の様な地域医療連携機能の強化に取り組んでいます。

1.地域医療連携室のスタッフの強化と入退院支援加算（1）の届出により、他の医療機関との情報交換と連携を深め、病病連携・病診連携・在宅復帰への支援の充実に取り組むとともに、関係者の方に当院の特徴を理解して頂くために、広報誌の配布等も行っております。

2.地域住民向けには出前講座・健康セミナーの開催など、当院が提供できる医療体制を広報すること。また、地域関係機関との連携を深めるため、コロナで休止となっていた「阪奈フォーラム」を開催し、意見交換の場を設けることを予定しています。

3.奈良県総合医療センターのICTを用いた救急ネットワークに参加し、同院にて救急患者受け入れ後に、入院が必要な軽症急性期の患者さんの受け入れも行っております。

4.地域の数多くの介護や福祉施設の協力病院となり、状態の悪くなった利用者の受け入れをし、地域福祉の充実にも関わっております。

３．地域医療構想の達成に向けた具体的な計画について

※「（２）地域医療構想の達成に向けた将来の方向性について」を踏まえた具体的な計画について記載してください
※「（３）」では選択肢によって条件設定を行い、回答内容によりそれ以降の問いに対し、システム上回答不要としている部分があります。この条件設定に不都合がある場合（回答することが適しているが選択できない場合など）は「４．その他」へ回答を打ち込んでください。

（１）機能毎の病床数のあり方等について

※H28年度の列は、別紙１－２「H28年度病床数一覧」の数値を記入してください。
※R5年度、R7年度（2025年度）の列は、今年度の病床機能報告及び別紙様式「急性期機能の細分化の報告」の数値を記入してください。
※ 用語の定義は、病床機能報告と同様です。
※最大使用病床数は１年間（R4.4.1～R5.3.31）に最も多く入院患者を収容した時点で使用した病床数のことです。

（床）

			H28年度	R5年度			（b）将来	（b-a）
			（a）許可病床数	許可病床数	最大使用病床数		R7年度	H28年度からの増減
一般病床・療養病床	高度急性期							
	急性期	重症	45	78	78		78	33
		軽症	120	32	16		32	−88
	回復期		45	90	85		90	45
	慢性期		45					−45
	休棟中（今後再開する予定）					→		
	休棟中（今後廃止する予定）							
	合計		255	200	179		200	−55
精神病床								
結核病床								
感染症病床								
介護医療院								

（２）領域ごとの医療機能の方向性について

※以下[1]～[16]の領域の今後の方向性（今後の対応や取組方針、他の医療機関との機能統合や連携、機能縮小、機能廃止等）について記入してください。
※選択肢については、あてはまるものにチェックをつけてください。

[1]がん

[1-1]当該領域について対応しているか？

はい

[1-2]手術の実施

消化器 泌尿器、(男性)生殖器

[1-3]化学療法の実施

対応している

[1-4]放射線治療の実施

対応していない

[1-5]拠点病院等の指定

[1-6]今後の方向性

・胃がん、大腸がんについては消化器内科医と消化器外科医の連携により治療方針を決定し、リンパ節転移の可能性がない場合は内視鏡による切除が可能。進行度によりリンパ節転移の可能性がある場合は、それぞれの癌治療ガイドラインに従い可能な限り腹腔鏡手術による低侵襲で精度の高い治療を行います。
・進行がんのため手術前後に抗がん剤治療が必要な場合は、入院または外来通院により化学療法を行うことが可能です。また昨今は高齢者のがん疾患が増加しており、大きな手術を受けられた場合には体力の低下を来すことが多くあるため、当院のリハビリテーション科では積極的にがんリハビリテーションに取り組んでおり、手術後も転院することなく当院の回復期病棟にて十分なリハビリの後に退院することが可能です。

[2]心筋梗塞等の心血管疾患

[2-1]当該領域について対応しているか？

はい

[2-2]24時間心血管疾患の急性期医療の実施

対応していない

[2-3]緊急心臓カテーテル検査及び治療の24時間365日実施

対応していない

[2-4]経皮的冠動脈形成術もしくは経皮的冠動脈ステント留置術の実施

対応している

[2-5]心疾患に対する外科手術の実施

対応していない

[2-6]冠動脈バイパス手術の実施

[2-7]急性大動脈解離の手術の実施

[2-8]大動脈瘤手術の実施

[2-9]心血管疾患等への早期リハビリ

対応している

[2-10]今後の方向性

・血管撮影装置を最新の機器へと更新しました。循環器科専門医と最新の医療機器の組み合わせにより、質の高いカテーテル検査、治療を提供して参ります。
・常勤医が１名であるため緊急対応は困難ではありますが、現状を維持し、可能な限り診療ニーズに応えて参ります。

[3]脳卒中等の脳疾患

[3-1]当該領域について対応しているか？

はい

[3-2]脳梗塞に対するt-PAによる脳血栓溶解療法の実施

対応している

[3-3]脳梗塞に対する脳血管内治療(経皮的脳血栓回収術等)の実施

対応している

[3-4]脳出血（くも膜下出血を含む）への対応

対応している

[3-5]くも膜下出血に対する脳動脈クリッピング術

対応している

[3-6]くも膜下出血に対するコイル塞栓術

対応している

[3-7]脳出血に対する開頭血腫除去術

対応している

[3-8]脳血管疾患等への早期リハビリ

対応している

[3-9]奈良県脳卒中地域連携パスへの参加

参加している

[3-10]今後の方向性

・脳神経外科常勤医3名体制により、速やかに開頭術・カテーテル治療を提供します。
・血管撮影装置を最新の機器へと更新しました。脳血管内治療専門医と最新の医療機器の組み合わせにより、質の高いカテーテル治療を提供して参ります。

[4]救急医療

[4-1]当該領域について対応しているか？

はい

[4-2]救急告示病院の指定を受けているか？

はい

[4-3]大腿骨骨折への対応

対応している

[4-4]病院群輪番制への参加

参加している

[4-5]小児科病院二次輪番体制への参加

参加していない

[4-6]今後の方向性

救急科専門医１名と他科医師、救急救命士1名により、現状の救急医療体制を維持する予定です

[5]リハビリ

[5-1]当該領域について対応しているか？

はい

[5-2]心血管疾患等への早期リハビリ（再掲）

対応している

[5-3]脳血管疾患等への早期リハビリ（再掲）

対応している

[5-4]回復期リハビリ病棟入院料届出の有無

有り（病床数を入力してください）(45)

[5-5]訪問リハビリの実施

対応している

[5-6]通所リハビリの実施

対応している

[5-7]今後の方向性

・理学療法士48名、作業療法士13名、言語聴覚士5名が在籍し、早期より集中的なリハビリテーションを提供しています。
・回復期病棟では365日リハビリテーション提供していますので、密度の高いリハビリテーションによる早期の機能回復を目指しています。

[6]在宅医療

[6-1]当該領域について対応しているか？

※ここで言う在宅医療は「在宅医療の提供」「他医療機関等との連携」「後方支援」を含む概念とします。

はい

[6-2]在宅療養支援病院の届出の有無

無し

[6-3]在宅療養後方支援病院の届出の有無

有り

[6-4]訪問リハビリの実施（再掲）

対応している

[6-5]今後の方向性

・地域包括ケア病棟45床と地域医療連携室の窓口機能を活用した、医療・介護施設との連携により、在宅医療への支援を行っています。
・在宅療養後方支援病院を届出しており、今後も継続して在宅医療への支援を行って参ります
・訪問診療等の在宅医療は、体制が整い次第開始予定です。

[7]訪問看護

[7-1]病院看護師が当該領域について対応しているか？

いいえ

[7-2]同一法人内に訪問看護ステーションをもっているか？

はい（施設名称をご記入ください）（阪奈中央訪問看護ステーション）

[7-3]今後の方向性

併設の訪問看護ステーションにて、引き続き訪問看護サービスを提供します。

[8]ＡＣＰ（アドバンス・ケア・プランニング）への取組

[8-1]「適切な意思決定支援に関する指針」(「適切な看取りに対する指針」)について

定めている

[8-1]今後の方向性

2020年10月に「適切な意思決定支援に関する指針」を定めました。地域包括ケア病棟の入院患者さんを対象に説明を行い、今後は他の病棟も対応する予定です。

[9]小児医療

[9-1]当該領域について対応しているか？

はい

[9-2]小児入院医療管理料の算定

していない

[9-3]新生児特定集中治療室管理料の算定

していない

[9-4]小児科病院二次輪番体制への参加（再掲）

参加していない

[9-5]今後の方向性

・常勤2名と非常勤2名の体制で、月曜日から土曜日まで外来診療を提供しています。
・専門外来（小児循環器、てんかん、発達）を開設しています。
・小児科病院二次輪番体制への参加は、現状の体制では困難な状況に変わりありません。

[10]周産期医療

[10-1]当該領域について対応しているか？

いいえ

[10-2]分娩の取扱い

[10-3]ハイリスク分娩管理加算の算定

[10-4]今後の方向性

今後も対応する予定はありません

[11]災害医療

[11-1]当該領域について対応しているか？

いいえ

[11-2]災害拠点病院の指定を受けているか？

[11-3]ＤＭＡＴ指定病院の指定を受けているか？

[11-4]ＥＭＩＳ（広域災害救急医療情報システム）への参加

参加している

[11-5]今後の方向性

災害時は自院にて可能な範囲で協力する予定です。

[12]へき地医療

[12-1]当該領域について対応しているか？

いいえ

[12-2]へき地医療拠点病院の指定を受けているか？

[12-3]今後の方向性

今後も対応する予定はありません。

[13]新興感染症等の感染拡大時における医療

[13-1]診療・検査医療機関の認定を受けているか？

はい

[13-2]新型コロナウイルス感染症の陽性患者入院受入を行っているか？

ただし自院に他疾患等で入院していた院していた患者は除く。

はい

[13-3]「感染症患者の受入を想定した研修や訓練」を、年1回以上自院で実施しているか？

いいえ

[13-4]下記訓練に年1回以上参加しているか？

行政機関（保健所等）や他医療機関等が主催する「感染症患者の受入を想定した研修や訓練

はい

[13-5]下記訓練を、自院で年1回以上実施しているか？

新興感染症の発生に備えた病床確保に当たってのシフトや応援に係る訓練・点検、院外から移送された患者の受入の流れを考慮した訓練

いいえ

[13-6]今後の方向性

令和3年5月10日の重点医療機関指定以来、新型コロナウィルス感染症患者の受入れを行ってきました。5類移行後も陽性患者受入れを継続しております。
「新型コロナウイルス感染症の令和５年10月以降の医療提供体制の移行及び公費支援の具体的内容について」に基づく「協定書」も奈良県に提出し、段階2となった時点より1床新型コロナウィルス感染症対応病床を確保しています。今後も陽性患者の受入れを行います。

他の医療機関との連携については、感染対策向上加算1を届出ている奈良県立医科大学附属病院を、基幹とする感染対策地域連携体制に参加しています。感染対策向上加算の要件である年4回の感染対策カンファレンスへの参加などを通して、感染対策上の連携体制を構築しています。

[14]医師の研修・派遣機能（臨床研修の実施等を含む広域的な医師派遣の拠点としての機能）

[14-1]当該領域について対応しているか？

いいえ

[14-2]基幹型臨床研修病院の指定を受けているか？

いいえ

[14-3]協力型臨床研修病院の指定を受けているか？

いいえ

[14-4]臨床研修協力施設であるか？

いいえ

[14-5]専門研修の基幹施設であるか？

はい

[14-6]専門研修の連携施設であるか？

はい

[14-7]今後の方向性

日本臨床神経生理学会認定施設、日本整形外科学会専門医制度研修施設、日本脳神経外科学会専門医認定制度関連施設、日本リハビリテーション医学会研修施設、日本泌尿器科学会泌尿器科専門医教育施設、日本東洋医学会研修施設の指定受けており、今後もこの体制を維持する方針です。
近々、新たな専門研修連携施設の申請を行う予定です。

[15]医師の働き方改革

[15-1]医師の宿日直許可の取得状況

取得済み

[15-2]今後の方向性

令和5年9月6日、宿日直許可を取得。今後、医師の外部勤務を含め、勤怠管理の徹底、タスクシフトに取り組む予定です。

[16]看護職員の研修機能

[16-1]特定行為研修の指定研修機関の指定申請予定はあるか？

ない

[16-2]特定行為研修の協力施設の申請予定はあるか？

ない

[16-3]今後の方向性

今後も申請する予定はない。

４．その他